

鎌倉市

浄光明寺

鎌倉商工会議所

浄妙寺

覚園寺

鎌倉市は自然の魅力とともに歴史や文化が重なり合って発展しているまちであり、また足利氏と歴史的に深いつながりを持っているまちでもあります。源頼朝と足利氏はともに清和源氏の流れをくみ、下野国足利荘に本拠をおいた足利氏は、足利義兼の時代に鎌倉幕府の創設にあたり頼朝を助けた功績があります。政権が北条氏に移ってからも足利氏は代々姻戚関係を結んで幕府の有力御家人として重きをなしました。全国に所領を多くもつ足利氏は、これを統べる家政機関を鎌倉において運営したといわれています。

室町幕府を開いた足利尊氏は、次子の基氏を鎌倉に下向させて関東公方を置き、関東10ヶ所の管領として統治させました。このことから、鎌倉市には尊氏以前の足利氏とともにそれ以後の足利氏とゆかりの深い史跡や寺々が数多くあります。



浄光明寺

北条氏の菩提寺として1251年(建長3年)に建立されましたが、後に足利氏から帰依を受け、足利尊氏も一時蟄居していました。足利直義の念持仏と伝えられる地藏像も残されています。



浄妙寺

1368年(応安元年)足利尊氏を開基足利義兼が1188年(文治4年)に建て、初めは真言宗で極楽寺といっていました。寺には、足利貞氏の墓と伝えられる北朝年号の明德3年(1392年)の銘のある美しい石造の宝篋印塔があります。



覚園寺

1218年(建保6年)に北条義時が建立した大倉薬師堂をもとに、1296年(永仁4年)に北条貞時が元寇の再来がないように願い、智海心慧上人を開山として真言・天台・禅・浄土の四宗を学べる道場、覚園寺とした。建武の中興では後醍醐天皇の勅願寺とされ、1354年(文和3年)に足利尊氏公の力によって本堂再建、今日でも棟札に尊氏公の願文が残っている。室町時代には鎌倉公方の足利氏の祈願所として栄えた。現在も中世鎌倉の趣が良く残る寺院のひとつである。

